

ブレンドされた豊かなバンドのサウンド その芯となるのはクラリネット

大阪府立淀川工科高等学校名誉教諭・吹奏楽部顧問 丸谷明夫氏 に聞く

高校吹奏楽界の勇、淀川工科高等学校吹奏楽部を長きにわたって指導されている丸谷明夫先生、生徒への愛情あふれる指導と、独自のサウンドづくりには他の追随を許さないものがある。伝統の「淀工サウンド」の秘密について丸谷先生にお話をうかがった。

ごまかさないで、自分の息を、クラリネットにしっかりと吹き込んで

——淀川工科高等学校吹奏楽部の音、淀工



伝統の「淀工サウンド」を紡ぎ出す丸谷明夫氏

サウンドについて先生はどのように考えてつくられているのでしょうか。

丸谷 各楽器のいいところが一体になった音を求めています。ブレンドされた音がいい。そして、クラリネットはサウンドの中心に置いている。

——しかし、吹奏楽の場合、金管ばかりが表に出てきて、木管が陰に回ることが多いですね。

丸谷 そうなりがちですが、我々としてはしっかりと木管の音がほしい。そうすると吹奏楽のサウンドが落ち着くんです。サウンドの芯というか、真ん中にクラリネットがあるとうすくいい。

——実際、淀工の音はどんなにガでもクラリネットがしっかりと聞こえてくるのですか、とかクラリネットには「もつとソフトに吹いて」と指導されがちで、しっかりと息を吹き込むのではなく、口先でそーっと息を入れるような吹き方をしています。

丸谷 クラリネットをごまかさないようにしたい。自分の息を、自分の思いのとおり音にできるのが吹奏楽のいいところじゃないですか。暖かい息、冷たい息を使い分けたりすることは人間にしかできない。いろいろな息を使って、思ったことを音とおして表現できるというのは素晴らしいことですから。

——弱い息でアラを隠してばかりいるのは、奏者の思いを音にすることができない。丸谷 それは我々の考える音楽ではありません。クラリネットをおしてどう表現したいのかが大切。誰かに合わせるというのではなく、自分自身のしっかりと息を



すなわち思いをこめて音を出せる、そういう人たちの集合体としてのサウンドをつくっていきたくと思っています。

初心者にも、
答えを急がず
じっくりと成長するのを待って

——具体的に、たとえば55人で合奏をする場合、クラリネットは何人ぐらいいるべきだとお考えでしょうか。

丸谷 曲によって変わりますが、たとえばハーブやチェレスタが入る曲だとして

器のパートを主にクラリネットが演奏することになるので、クラリネットはとても重要です。天才ラヴェルの求める音にどう応えてくれるか、とても楽しみです。

より洗練されてきた
プレザンス
ラヴェル作品での効果も楽しみ

——セルマー・クラリネットについてはどのような印象をお持ちですか？

丸谷 「よく練習したらよく応えてくれるクラリネット」という感じかな。吹き手に正直な反応をしてくれるクラリネット。

——アルテアと比べてプレザンスはどうですか？

丸谷 アルテアもいい楽器ですが、プレザンスはより美しい音があるなど直感しました。音がよくブレンドし、倍音もさらに豊かになっています。10S II ☆ アルテアとしてプレザンスとだんだん洗練された感じになってきていて、とにかく音が美しい。

——淀工ではラヴェルの作品をよく演奏されますが、たとえば「ダフニスとクロエ」や「スペイン狂詩曲」などではどんな効果が期待されますか？

丸谷 ラヴェルは「音の魔術師」と言われ、色彩感を表現することが重要で、かつ弦楽



10S II ☆、アルテア、そしてプレザンスが淀工の愛器として演奏され続けている



「サウンドの芯にクラリネットがある」とすこくいいですね」と丸谷氏

HENRI SELMER PARIS

Présence

セルマー・パリ クラリネット
プレザンス

- 調子: B♭/A
- ピッチ: 442Hz
- バレル: 65.5mm
- 銀メッキ・キー
- 可動式右手親指掛け
- パッド: バレンティノ
- ブルースチールスプリング
- プレザンス専用ケース・ケースカバー付
- マウスピース: セルマー・パリ
- リガチャー: セルマー・パリ

B♭: ¥440,000(税抜)
A: ¥490,000(税抜)

SELMER Paris サイト
www.nonaka.com/selmer/



総輸入元 野中貿易株式会社
〒231-0011 横浜市中区太田町4-46
総発売元 株式会社ノナカ
〒231-0011 横浜市中区太田町4-46